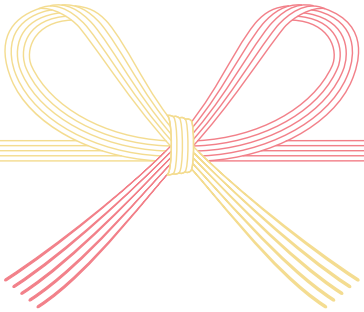
「五色線」の色



Q. のし袋や金封で目にするカラフルな水引の「五色」は何を意味するの？

A. 五色は、古代中国の「陰陽五行説」に由来します。

■五色の由来

陰陽五行説とは、万物は「陰・陽」の二気、**「木火土金水」**（もっかどごんすい）の五行で成り立ち、これら陰陽五行の要素で世の中は回っているという思想で、日本の文化に深く関わっています。この五行を**「青・赤・黄・白・黒」**の５色で表したものが**五色**で、**「木＝青、火＝赤、土＝黄、金＝白、水＝黒」**と表します。これが五色線の色となっています。神社、お寺には欠かせない大切な色です。

陰陽五行説	木	火	土	金	水
五色	青	赤	黄	白	黒
			金	銀	紫 緑

黒の代わりに樺（紫）・緑を含める場合など差異があります。又、金色や銀色は黄色や白色に通じるとされています。

■五色は何色

五色とは、**青（緑）・赤・黄・白・黒（紫）**の５色。ただし、染料や色彩認識の関係で、昔も今も青は緑、黒は紫で表されることが多いので、実際には緑・赤・黄・白・紫になっていることもあります。

五色のほかにも、
- ●方角を表す「五方」
- ●季節を表す「五時」
- ●人の徳目を表す「五常（五徳）」
- ●人の感覚器官を表す「五官」など

あらゆるものが五行に配されています。

■五色はどう使われているの？

おなじみの例としては、鯉のぼりの吹き流しは五色で魔除けの意味がありますし、七夕飾りの吹き流しや短冊も同様です。また、本来は端午の節供のちまきに五色の糸が結ばれており、私たちが祝いのシーンで使っているくす玉も、菖蒲やヨモギで編んだ薬玉に五色の糸をたらし、端午に魔除けをするためのものでした。

ほかにも、寺社に行けば五色のものがたくさんありますし、相撲の土俵の上には、東に青、西に白、南に赤、北に黒の房がさがっています。

また、ものに限らず春夏秋冬を青春・朱夏、白秋、玄冬と表現するなど、さまざまなところに五色が使われているのです。

土俵上の吊り屋根の四隅には、東西南北に青・赤・白・黒の「四房（しぶさ）」があり、中央が黄となります

●地区のしきたり、宗教の違いにより、異なる場合がありますのでご注意ください。